

20の リレートーク



佐藤 美香さん
福島市在住
(上飯樋出身)

◆自分の可能性を信じて

私は、社会人になって新たな目標を手に入れました。今までとはまったく異なる環境・土地である、「向瀧旅館」のルーム(仲居さん)として、明るく、元気に、笑顔で接客することをテーマに快適な空間を作り上げること。それが自分のやりたい仕事。

旅館のルームである前の私は、学生であり、まだ子供でした。20歳になった今でも、まだ自分の可能性を信じています。

自分の人生を妥協して後悔したくはありません。常に迷い、また悩むこともあります。でも確固たる信念を持っていれば絶対に実現できると断言できます。

良いことばかりではないし、時にはつらい経験や失敗もあるでしょう。でも失敗を恐れずに冒険すること大切です。

私は、高校の時、福祉関係の仕事に就くために老人ホーム・保育園自習をしていました。その時初めて、自分の置かれている、恵まれた環境と可能性を知ったのです。

あの時、私が持っていたもの全ては、親が与えてくれたもので、決して自分の力で手に入れたものではありませんでした。

全ての状況下において、必ず他人の力は存在します。決して自分一人でここまで成長したわけでないということ。そして、周りに感謝することを私は忘れないでしょう。



「学校らしくない学校」

学校らしくない学校が出来上がりました。飯樋小学校南校舎です。

耐震のために大規模改修をしようとしたら「改修費が多くなるので新築した方がよいのでは」との県の助言で、スタートした事業でした。

どうせ新しくつくるなら子供たちに喜ばれる学校にしようと思い「学校らしくない学校づくり」になった訳です。「学校らしくない学校が、子供たちに喜ばれる？」おかしな話ですね。

でもよく考えてみてください。幼稚園からの1年生と、もうすぐ中学生になる6年生が、同じ形の教室に入るという方が不思議ではありませんか。1・2年生には1・2年生らしい教室があつていいでしょうし、5・6年生にはそれなりの教室の方が子供たちに喜ばれるはずですよ。

授業を終えると先生は教室に戻る

もの：これも当り前と思ってきました。教室に先生がいてくれたら、先生と遊べる子もいるかもしれません。玄関には必ず下駄箱がデンとそびえている、教室の後ろにはカバン入れの棚がある、廊下は走らないで：というように、学校とは「こういうもの」という固定観念で、果してそれが子供たちにとって楽しい場所だったのでしょうか。走りたくなる廊下があつても良いのではないかと思います。

もう1度、子供の目線で毎日行きたくなる楽しい学校、勉強しやすい教室をつくってみようとの壮大な実験校舎なのです。

ですから、いろんな問題も出てくることでしょう。先生方にも苦労をかけると思います。でも、疑問が生じるところから、人の考えが深まり、やり方が見つかり、前進すると思うのです。

これから北校舎を改修します。地域の方が学校で子供たちとふれ合える場所にと考えています。

なにはともあれ、飯樋小学校を見てください。

平成16年2月27日

飯館村長 菅野 典雄